

適用雑草および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り		総使用回数	使用方法
			薬量	希釈水量		
日本芝	スズメノカタビラ	芝生育期 秋期雑草発生前	300~600ml	200~300L	本剤のみ： 2回以内 IPCを含む農薬： 2回以内	全面土壌散布
		芝生育期 秋期雑草発生始期 (スズメノカタビラ3葉期以内)	400~800ml			



効果・薬害等の注意

- 散布液調製後はできるだけ速やかに使用する。(分解)
- 雑草の発生前から発生始期に、時期を失しないように使用する。(効果)
- 最高気温が25℃以下の時期に使用する。(効果)
- 過乾の場合は希釈水量を多めにして散布する。(効果)
- 雨天の場合は、降雨後、土壌水分が適湿の状態となつてから散布する。(効果)
- 激しい降雨が予想される場合は、使用を避ける。(効果)
- 十分に活着した日本芝に使用し、ベントグラスなどの西洋芝には薬液がかからないようにする。(薬害)
- 散布液の飛散、流入によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布する。(薬害)
- 桑葉にはかからないように散布する。(蚕毒)
- ミツバチや巣箱にかからないように散布する。また、散布周辺の開花期の植物にかからないように散布する。
- 本剤使用に用いた器具類は、使用後できるだけ早く水又は石けん水で洗っておき、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならぬように注意する。
- 著しい低温で一部原体が結晶析出した場合、ビンのままぬるま湯に浸して十分溶かした後、よく振ってから使用する。
- 本剤使用に当っては土壌条件、気象条件並びに発生する雑草の相違から効果及び芝への影響も異なるので、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、関係機関の指導を受けることが望ましい。



安全使用上の注意

- 散布液調製時には保護メガネを着用し、薬剤が眼に入らないように注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける。(強い刺激性)
- 散布液調製時には不浸透性手袋を着用して、薬剤が皮膚に付着しないように注意する。皮膚に付いた場合は直ちに石けんでよく洗い落とす。(刺激性)
- 散布時は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして、衣服を換える。作業時の衣服などは他と分けて洗濯する。
- かぶれやすい人は取扱いに十分注意する。
- 公園等で使用する場合、関係者以外は作業現場に近づかせない。小児、居住者、通行人、家畜などに留意し、散布後(最小限その当日)も散布区域に縄囲いや立て札を立て立ち入らせない。
- 魚毒性…通常の使用方法では問題ない。
- 保管…密栓し火気をさけ、食品と区別して直射日光のあたらない涼涼・乾燥した場所に保管する。

芝生用除草剤

農林水産省登録
第21118号

プロバイド®CE

IPC乳剤 新登場



●ラベルをよく読む。●ラベルの記載以外には使用しない。●小児の手の届く所には置かない。

販売 株式会社 **ユニカス**
東京都千代田区神田須田町2-5-2

取り扱い

製造 保土谷化学工業株式会社
神奈川県川崎市幸区堀川町66番地2

UNICAS

株式会社 **ユニカス**



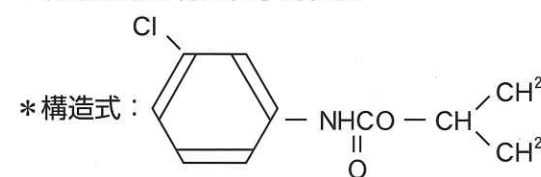
人や自然にやさしさと思いやりを…

プロバイドCEの特徴

- 水をベースとした新しい製法により、匂いのない製剤です。
- 発生前だけでなく発生始期のスズメノカタビラに対して高い効果を発揮します。
- 低温期にはさらに生育の進んだスズメノカタビラにも効果を発揮します。
- 日本芝（コウライシバ・ノシバ）に高い安全性を有します。
- 寒地型芝生には直接使用できないが、流れ込みや、踏み込みの心配はなく使用できます。

プロバイドCEの一般的性状

- *一般名：IPC乳剤 *試験名：HCW-001
- *有効成分の化学名および含有量：イソプロピル-N-(3-クロロフェニル)カーバメート 50%
- *性状：類白色可乳化油状液体
- *有効成分の物理化学的性質



- *融点：41.4℃
- *分子量：213.5
- *水溶解度：103ppm (25℃)
- *蒸気圧：1.0×10⁻⁵Pa (20℃)

プロバイドCEの毒性

人畜毒性【製剤：普通物】

- *急性経口毒性 (LD₅₀) ラット♂♀ >5000mg/kg
- *急性経皮毒性 (LD₅₀) ラット♂♀ >5000mg/kg
- *眼刺激性 ウサギ（散布液） 刺激性なし
- *皮膚刺激性 ウサギ（原液） 強い刺激性あり
- ウサギ（散布液） 刺激性なし
- *皮膚感受性 モルモット（原液） 中程度の感受性あり

水生動植物【製剤：B類相当】

- *魚毒性 コイ ————— LD₅₀ (96時間) 22.3mg/L
- オオミジンコ — LD₅₀ (48時間) 17.3mg/L
- 藻類 ————— EC₅₀ 1.11mg/L

自然を愛し、豊かな緑をめざして…

プロバイドCEの樹木に対する薬害試験

樹 種	18日目		37日目	
	程 度	症 状	程 度	症 状
ドウダンツツジ	無	なし	無	なし
イヌツゲ	無	なし	無	なし
サクラ	無	なし	無	なし
シャリンバイ	無	なし	無	なし
オオムラサキツツジ	無	なし	無	なし
ネズミモチ	無	なし	無	なし
サザンカ	無	なし	無	なし
ウバメガシ	無	なし	無	なし
ヒマラヤスギ	無	なし	無	なし
クロマツ	無	なし	無	なし
コノテガシワ	無	なし	無	なし

2003年10月27日処理
プロバイドCE 0.8ml/m²
水量200ml/m²で樹木茎葉処理
本試験場で特に影響は見られなかった。

プロバイドCEの上手な使い方

- ①スズメノカタビラの発生前から発生始期に有効で、効果の持続期間は90日程度である。
- ②キク科雑草には効果が劣る。
従ってカタビラの発生始期において発生前処理剤やキク科に有効な剤との組み合わせによる使用が効果的である。

<プロバイドと発芽前土壌処理剤との組み合わせによる使用例>

試験場所：つくば試験地 処理日：2003年10月31日（スズメノカタビラ2L期）→2004年4月28日の状態
雑草発生条件：スズメノカタビラ・ヒメムカシヨモギ・ミミナグサ・ナズナ・オオイヌノフグリを播種し多発。



A剤0.15



B剤0.12



プロバイド0.6ml
+
A剤0.15



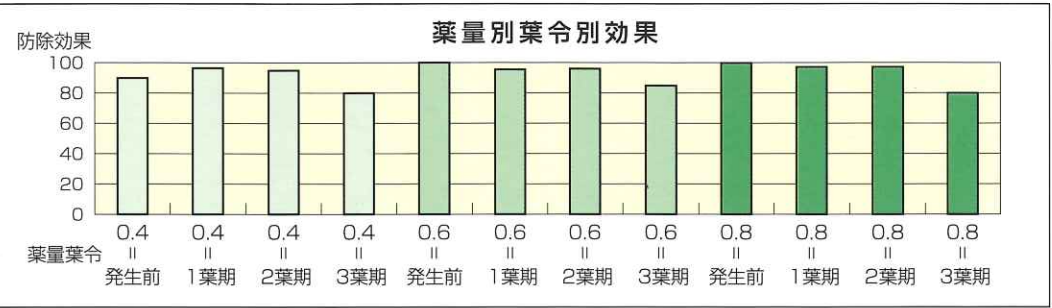
プロバイド0.6ml
+
B剤0.12

結果：組み合わせによってはキク科の取りこぼしが見られる。このような場合はSU剤利用などの対策が必要。



環境への配慮、そして緑の保全に…

プロバイドCEのスズメノカタビラに対する除草効果 (温室内試験)



0.4m l / m²~0.8m l / m²の範囲でスズメノカタビラの発生前~発生始期3葉期までにおいて有効
低温期はさらに生育の進んだスズメノカタビラにも高い効果を発揮する

プロバイドCEのスズメノカタビラに対する除草効果 (試験場試験結果)

試験地 処理日	カタビラ発生前処理			試験地 処理日	カタビラ発生始期処理		
	薬量 (ml)	無処理比 (重量%)	薬害		薬量 (ml)	無処理比 (重量%)	薬害
東日本G研 コウライシバ 02年10月10日	0.3	0.0	無	東日本G研 コウライシバ 01年10月24日	0.4	0.0	無
	0.4	0.0	無		0.6	0.0	無
	0.6	0.0	無		0.8	0.0	無
鳥取園試 コウライシバ 02年10月7日	0.3	3.0	無	中国G研 コウライシバ 01年10月2日	0.4	2.0	無
	0.4	0.0	無		0.6	0.0	無
	0.6	0.0	無		0.8	0.0	無
西日本G研 ノシバ 02年10月5日	0.3	1.0	無	西日本G研 ノシバ 01年11月7日	0.4	1.0	無
	0.4	0.0	無		0.6	1.0	無
	0.5	0.0	無		0.8	0.0	無

プロバイドCEの広葉雑草に対する除草効果=参考

① 雑草発生前処理				② 雑草発生始期処理			
草種	0.2ml	0.4ml	0.6ml	草種	0.2ml	0.4ml	0.6ml
ミミナグサ	△	◎	●	ミミナグサ	△	◎	●
コハコベ	×	○	◎	コハコベ	□	◎	◎
イヌナズナ	●	●	●	イヌナズナ	●	●	●

●: 100%防除 ◎: 90~99%防除 ○: 80%~89%防除 □: 70%~79%防除 △: 50%~69%防除 ×: 0%~49%防除

満足できる豊かな緑をいつまでも…

プロバイドCEのシバに対する薬害 (温室内試験)

	0.2ml / m ²	0.4ml / m ²	0.6ml / m ²	0.8ml / m ²	
コウライシバ	○	○	○	○	×: 薬害程度 大
ノシバ	○	○	○	○	△: 薬害程度 中
ベントグラス	×	×	×	×	□: 薬害程度 微
ケンタッキーブルーグラス	×	×	×	×	○: 薬害程度 無
ペレニアルライグラス	△~○	×~△	×	×	

①日本芝 (ノシバ、コウライシバ) に対する薬害はない。
②ベントグラス、ケンタッキーブルーグラス・ペレニアルライグラスに対し強い薬害を示す。

プロバイドCEのベントグリーン周り使用における流れ込み影響試験

試験方法: グリーン周りにm²当りプロバイドCE 0.4、0.6mlを100mlの散布水量で処理した。
処理直後に10mm、30mmの降雨に相当する水道水をジョロにて散布し、その後のベントグラス内への流れ込みの影響を調査した。

	処理量	降雨量	ベントグラスへの影響	
	ml / m ²	mm	20日後	60日後
プロバイドCE	0.4	10	0	0
	0.6	10	0	0
	0.4	30	0	0
	0.6	30	0	0



0.6ml / m²処理直後
30mm降雨区

(2002年11月18日実施) 評価は0:無処理区同様~10:完全枯死
試験結果: 処理後20日および60日の調査において流れ込みの影響はみられなかった。

プロバイドCEのベントグリーン周り使用における靴底による持ち込み影響試験

試験方法: グリーン周りの刈高の異なる芝の各区1m²を使用してプロバイドCE 0.4、0.6mlを200ml散布水量で処理した。
処理直後、処理区内を50回踏圧し靴底に十分散布液が付着した後、ベントグリーン内を直線に歩行し、薬剤の持ち込み歩数を検討した。

	踏み込み 場所	処理量 ml / m ²	第1歩 5歩 10歩 15歩 20歩				
プロバイドCE	刈高5mm	0.4	0	0	0	0	0
		0.6	0	0	0	0	0
	刈高15mm	0.4	0	0	0	0	0
		0.6	0	0	0	0	0



刈高15mm
0.6ml / m²処理直後
処理区内50回踏圧後歩行区

(2002年11月18日実施) 評価は0:無処理区同様~10:完全枯死
試験結果: 処理後20日および60日の調査において持ち込みの影響はみられなかった。